

令和 7 年 2 月 20 日

教 育 長 様

研究コース	
B グループ研究B	
校 園 コード（代表者校 園 の市費コード）	
732665	
選定番号	B242

代表者	校 園 名：	大阪市立墨江丘中学校
	校 園 長 名：	進藤 文代
	電 話：	06-6674-3612
	事務職員名：	颯田 涼介
申請者	校 園 名：	大阪市立墨江丘中学校
	職 名・名 前：	指導教諭 田中 大雅
	電 話：	06-6674-3612

令和 6 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 5 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	B	グループ研究B	研究年数	新規研究（1年目）												
2	研究テーマ	これからの時代に求められる資質・能力を 育成するための社会科学習指導の研究 －社会形成力の系統的育成－																
3	研究目的	1. 社会形成力に注目し、知識だけではなく社会科で育成すべき資質・能力を明らかにしたい。 2. 社会科で育成すべき思考力・判断力・表現力の系統的な育成方法から、各時間の問いや資料、学習活動を明らかにしたい。 3. 探究としての学びになるような単元開発を行い、学習のレリバンス（有意性）を意識した単元開発を明らかにする 4. 社会形成力の評価方法として、ペーパーテストの変革だけでなく、ワークシートの記述やグループでの話し合い、発表・作品の評価方法を明らかにしたい。																
4	取り組んだ 研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。（MSゴシック 9.5ポイント）</p> <p>1. 社会科で育成すべき資質・能力を明らかにした 民主主義社会では、①参加民主主義（知識だけでなく、熟議や社会参画に注目すること）、②創造的民主主義（他者とともに問題解決に取り組むこと）、③多文化的民主主義（個人や集団の違いを対話によって結びつけること）の理想を掲げている。学校教育においては、これからの時代を生きる力として、社会科の性格が内容（コンテンツ）の重視から資質・能力（コンピテンシー）の重視へ大きく転換している。しかし社会科の授業実践は、旧態依然として知識の習得に重点を置いている。子どもから暗記教科として嫌われる教科から脱却するために、社会形成力に注目し、知識だけではなく社会科で育成すべき資質・能力を明らかにした。社会形成力とは、未完の民主主義の理想を実現すべく、個人としてあるべき姿を決断するとともに、他者と協働して新たな社会秩序（ルールや制度）を構築していくための知識・能力・態度である。</p> <p>2. 社会科で育成すべき思考力・判断力・表現力の系統的な育成方法を明らかにした 社会科の学習目標の柱として「知識」「技能」「思考力・判断力・表現力」「情意・態度」の4つがあるが、学力レベルとして習得した知識を「知っている」だけでなく、「わかる」「使える」段階まで引き上げるために、社会科のカリキュラム・単元・各時間における問いを明確にし、育成すべきスキルを検討した。「なぜ～？」の考察を促す問いや、「どうしたら～？」の構想を促す問いを単元を貫く問いを中心に、各時間の問いや資料、学習活動を明らかにした。</p> <p>3. 学習のレリバンス（有意性）を意識した単元開発を明らかにした 子どもが社会科の学びが自分にとって意味があると実感できるとともに、将来の市民・職業人としての生活にも関わっていると感じられることは、学びの意欲に影響する。そのため、授業における問いが子どもたちに切実性があり、扱う資料が子どもたちの常識を揺さぶるようなものになる必要がある。探究としての学びになるような単元開発を行い、子どもにとっての学びのレリバンスを高めた。レリバンスは有意味性や関連性と訳され、日本では教育と社会とのつながり（学校での学びが社会との関係の中で、どのような意味をどのように生み出すのか）が検討されている。社会形成力を育成するためには、①できる限り現実社会の論点・争点を教室空間に持ち込むこと、②子どもが真に知りたいこと・分かりたいことを教室空間の中核に据えること、③科学的な知識・方法を教室空間の学びの基盤とすること、④教室空間の学びを現実社会にフィードバックすることが必要である。</p> <p>4. 社会形成力の評価方法を明らかにする これまでの社会科評価は、ペーパーテストで事実に知識の習得を測ることに偏っていた。概念的知識や思考力を測る問題として、論述テストの作成・実践を行った。</p>																
5	研究発表等 の日程・ 場所・ 参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table><tr><td>日程</td><td>令和 6 年 12 月 27 日</td><td>参加者数</td><td>約 25 名</td></tr><tr><td>場所</td><td colspan="3">四天王寺大学 あべのハルカスサテライト</td></tr><tr><td>備考</td><td colspan="3">四天王寺大学教育学部 講師 西口卓磨先生の講演を含む</td></tr></table>					日程	令和 6 年 12 月 27 日	参加者数	約 25 名	場所	四天王寺大学 あべのハルカスサテライト			備考	四天王寺大学教育学部 講師 西口卓磨先生の講演を含む		
日程	令和 6 年 12 月 27 日	参加者数	約 25 名															
場所	四天王寺大学 あべのハルカスサテライト																	
備考	四天王寺大学教育学部 講師 西口卓磨先生の講演を含む																	

6	成果・課題	<p>大阪府教育振興基本計画に示されている、子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上および教員の資質や指導力の向上について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 <p>学習教材に関する研究を進めることにより、社会科で育成すべきスキルの系統性を明らかにする。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「主体的に学習に取り組む態度」に関わる項目で5ポイント上昇させる</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「主体的に学習に取り組む態度」に関わる項目で5.4ポイント上昇した。学習内容が生徒にとって切実なものとなるように選択したので、裁判員制度や金融、社会保険制度などのテーマについて、生徒とのレリバンスを高めることができた。</p> <p>【見込まれる成果2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 <p>「なぜ～？」の考察を促す問いや、「どうしたら～？」の構想を促す問いを単元を貫く問いとを中心に、社会科3分野の単元構造図を作成する。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「思考・判断・表現」に関わる項目で5ポイント上昇させる</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>小単元（各時間）で「なぜ？」「どうしたら？」形式の問いを生徒に投げかけ、社会的事象に対する考察・構想を促すことができた。生徒アンケートでは「思考・判断・表現」に関わる項目で4.6ポイント上昇した。「どうしたら？」形式の問いに対して、生徒が構想する学習活動がやや難しかったことが原因であると考えられる。</p> <p>【見込まれる成果3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ☑ 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上 ☑ 教員の資質や指導力の向上 <p>授業における問いが子どもたちに切実性があり、扱う資料が子どもたちの常識を揺さぶるために、探究としての学びになるような単元開発を行い、子どもが学びのレリバンスを高める。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「技能」に関わる項目で5ポイント上昇させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>学習活動の事前と事後において、生徒アンケートを実施し、「技能」に関わる項目で6.2ポイント上昇した。学習内容が生徒にとって切実なものとなるように選択したので、裁判員制度や金融、社会保険制度などのテーマについて、生徒とのレリバンスを高めることができた。</p>
---	-------	---

研究コース

B グループ研究B

選定番号

B242

代表校園

大阪市立墨江丘中学校

校園長名

進藤 文代

6	成果・課題	<p>【見込まれる成果4】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 教員の資質や指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストで事実に知識だけでなく、概念的知識や思考力を測る問題を作成する。 ・ペーパーテストの変革だけでなく、ワークシートの記述やグループでの話し合い、発表・作品の評価方法を取り入れる。 <p>《検証方法》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストで思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を問う問題を3割以上にする。 ・発言の回数、提出物ではなく、ワークシートの記述やグループの話し合い、発表内容で学習評価する。 <p>〔検証結果と考察〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーテストで思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を問う問題を3割以上にできた。 ・発言の回数、提出物ではなく、ワークシートの記述で学習評価することができた。
		<p>【研究全体を通じた成果と課題】 研究発表会等で使用した資料や研究冊子から引用し、端的に記述してください。</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>理論研究として、社会形成力の概念とその育成方法を整理・共有した。授業実践では、①地理的分野―単元「地域調査の手法」「地域の在り方」―、②歴史的分野―「未来に繋がる歴史の見方 Historical Perspective(歴史的視点)を身につける授業実践―、③公民的分野（政治領域）―単元「民主政治と政治参加」―、④公民的分野（経済領域）―単元「私たちの暮らしと経済～私たちはどのように経済に関わっているのか～」―の授業開発を行い、社会形成力を育成した。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p> <p>《代表校園長の総評》</p> <p>1. 新規研究（1年目） ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>社会形成力に注目した学習のレリバンス（有意性）を意識した単元開発を推進するために、まず全国研究大会に参加して先進的な取り組みを学び、12月の研究会で理論の整理・共有化を図った。次に、学校間で連携して社会科教員で3分野（地理・歴史・公民）の単元開発に取り組み、社会科の学びが子どもたちにとって意味があると実感できるような、4つの単元を授業実践することができた。授業実践では子どもの語りによって学びを深められるように、指導者の力量をさらに磨いてほしい。</p> <p>2. 継続研究（2年目） ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>